

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス姫神		
所在地	〒028-4132 盛岡市洪民字駅105番地		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果市町村受理日	令和6年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月12日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で生活でをし、日常生活支援をご本人の希望・ニーズに合わせて支援しています。利用者様の尊厳を大切に心から楽しい時間を過ごして頂けるよう、職員は笑顔忘れずに接していくことを目標にしています。一人一人に合わせた支援を行い、ここにいて楽しいと思われるような施設になるような取り組みでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、盛岡市洪民地区の中心部に位置し、近隣に保育所や小学校、市役所総合支所、消防署、医療機関、大型スーパー等がある閑静な住宅地にある。「ゆっくり、笑顔で、いつまでも」という理念のもと、笑顔で入居者の気持ちを優先しゆったりとした日常を大切にしている事業所である。運営推進会議は、年度当初は書面開催であったが、9月からはコロナ禍の感染状況を踏まえ対面での開催となり、各委員からの率直な意見を利用者支援に繋げている。事業所敷地内には畑があり、トウモロコシや枝豆、かぼちゃ等の野菜を植え、職員と一緒に収穫し、穫れた野菜を使った食事を楽しんでいる。毎月のお楽しみ会や季節ごとの行事も利用者が楽しめるように工夫している。感染症対策のため地域との交流は控えているが、2か月に1回発行している広報誌は、運営委員や地域包括支援センターの他、回覧板に入れていただき、地域の方々に事業所を知っていただけるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ職員と管理者が共有することで利用者がより良い暮らしを継続できるよう努力している。	令和3年に分かりやすく伝わりやすい理念にしようとして職員で話し合い「ゆっくり 笑顔で いつまでも」という現在の理念に見直した。掲示板に掲示するとともに、ミーティング時等に共有し理念に添った実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症が施設に持ち込まれるリスクもあり、まだまだ交流は難しいが、事業所が認知されるように広報を配る範囲をのべた。	コロナ禍により地域との交流は控えている。自治会に加入していないが、2か月に1回発行し運営委員や地域包括支援センター等に配布している広報誌の配布範囲を広め、地域の回覧板に入れていただき、地域の方々に事業所を知っていただけるよう努めている。また、冬期間には、地域のシルバー人材センターに除雪を依頼し、来所した近隣に住んでいる方々と交流するよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は、数回行われており最初は書面開催ではあったが活動の報告はできている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見があった際には情報を職員間で共有している。また日々、サービスの向上に努めている。事故報告やヒヤリハットについても報告し意見を頂くようにしている。	運営推進会議は、地域包括支援センターの所長や自治会長、民生委員、利用者家族が委員となり、2か月に1回開催している。9月からは対面に改め、入居者の様子や事故報告、行事予定を報告し意見をいただいている。自治会長が委員となっており、広報誌を回覧板に入れていただいている。ヒヤリハットの報告も行うこととし、些細な事でも取り上げるよう心掛けています。	運営推進会議では、報告事項に加えてテーマを設けて短時間の研修を取り入れたり、避難訓練に併せて開催するなど、会議の持ち方について検討されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連絡を取り、事業所の特色を積極的に発信している。また、と問い合わせの際の見学も積極的に取り組んでいる。	市の総合支所が近隣にあるが、介護保険の更新手続き等での利用に留まっている。運営推進会議に参画している地域包括支援センターの職員とは、困難事例を相談する等、相互に協力しあって積極的に働きかけている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的にしておらず、管理者の指導、内部研修で学習している。不明なことや不安なことは勝手に判断せず、事例検討等で正しく理解できるよう研修を行う。	身体拘束廃止委員会を3ヵ月に1回開催し、内部研修を行いながら身体拘束をしない介護に取り組んでいる。スピーチロックが気になる時には適宜、管理者が直接指導し、ミーティング時にも話題にして改善に取り組んでいる。夜間の離床センサーは、転倒防止のため2名の利用者が使用し、防犯のために玄関は日中も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一回は虐待の勉強会を行い、事業所内での虐待への再認識を行うことで注意をしている。また、気が付かないうちに虐待をしているなど見逃さないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会をする機会が持てないでいる。研修会が開催される際には管理者が、率先して受けていきたいと思っている。その後内部研修につなげていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	アセスメントをする際には利用者との関係や、ご家族の不安を話しやすい環境を作り疑問について説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望の情報は会議で共有し職員全員で理解することで運営に反映するようにしている。利用者に担当を付け、毎月状態報告として手紙を出している。利用者からは、大きな希望は聞かれないが、生活にちなんだ作業やドライブの要望が多い。	通院同行のために来所した際に、家族の希望等を伺っている。家族からは、「乳製品を摂らせてほしい」「この服を着せてほしい」等食べ物や服装についての希望が多い。居室担当者が、日頃の様子をまとめた手紙を月1回お届けしている。利用者の意向は、日常会話の中から確認しており、ドライブや外食等外出の要望が多く、可能な限り対応している。	家族へ手紙を届ける際には、事業所内の様子を写真や居室担当者のコメントを添えるなどのちょっとした工夫を凝らすことで、家族の不安を取り除き期待に応えることができると思われる。家族が気軽に相談するための媒体となるよう、内容を検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を取り入れ働きやすいマニュアルの変更を行っている。意見やアイデアがあれば積極的に取り入れている。	年1回の面談や普段の会話の中から職員の意向把握に努めている。職員からは、消耗品や調理器具等の修繕や購入の意見が多く、職員で話し合いながら業務改善に繋げている。また、資格取得についての希望があった時は、できるだけ支援するよう努めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な角度で評価を行い、本人からの希望は適宜受け入れていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ・スキルアップできるような研修に出席できるような環境があると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流自体はないが交流する機会があれば訪問をしてサービスの向上にしていければいいなと思っている。同グループでの訪問は行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを実施する時点でしっかりと本人のこままっていることや要望を可能な限り把握することで早い段階で安心して過ごして頂けるように努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんだが家族からのアセスメントも大変重要であると感じており安心して、家族を預けて頂けるように努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることやこれからはどうしていきたいのか、様々な観点から総合的に判断すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生き立ちや性格を把握し様々な方面から分析し本人合わせ無理なくゆっくりと共に過ごして頂けるよう個性を大事にしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちを大事に、尊重に気持ちを忘れず家族とともに支えていく関係が持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、面会や電話での会話ができるよう支援してる。	利用者と家族とのやり取りは、通院同行時や電話が中心となっているが、誕生日や敬老の日にプレゼントを送ってくれる家族もいる。できるだけ家族との関係が途切れないよう支援している。利用者の多くが浜民地区出身者で、近所の公園に花見に出かけたり、姫神山方面や自宅周辺にドライブに行く等、以前良く訪れたことのある場所に出かけ、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう努めている。2ヵ月に1回の訪問理容サービスを利用しており、新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの性格やレベルを理解し一人一人が関わりが持てるよう、会話の橋渡しを行っている。孤立しないように気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや要望があれば、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	よく会話を行い希望があれば意向の把握に努めている。本人ならどうしていきたいかと気持ちを大事にしている。	自分の意思を伝えることができる利用者が4人程おり、筆談の利用者も2名いる。「ゆっくり、笑顔で、いつまでも」の理念に基づき、じっくりと利用者の話を聞く機会を設けている。日常会話の中から本人の意向を把握するよう努めており、農家出身の方からは、ひえ飯が食べたい等食べ物についての希望が多く出される。昔の行事や思い出等、楽しかったことを話してくれる事が多く、本人の気持ちに添いながら意向の把握に努めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活を送ってきたのか理解するようにしている。可能な限り馴染みのある生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆が同じ生活スタイルにするのではなく個人に合わせて無理なく過ごし頂くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろんだが担当スタッフとの連携を取り、それぞれの意見を反映することができるようにしている。その都度見直しをかけている。	6ヵ月に1回の見直しを基本としている。管理者と計画作成担当者で原案を作成し、職員とのミーティングを通じ職員の意見を反映するようにしている。原案作成後、家族の意向を確認し介護計画を作成している。家族の意向は、通院同行時や電話で確認している。また、状態に変化があった場合は、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への日中の様子、特変がある際にはその記録をし情報を共有している。また実践に役立つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議や毎日のミーティング等で様々な視点からニーズを見つけ事業所での適応なサービスにつなげられるよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な資源があるということを把握し安全な暮らしができるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	受診内容の情報は家族様より報告を頂いてい る。また、施設で対応した場合でも報告をし、今 後の受診やニーズに合わせた医療を受けられる ようにしている。	ほとんどの利用者が、入居前からのかかりつけ 医を受診している。同行は家族を基本としてい る。受診の際には、健康状況を記載した「状況報 告書」を託し、医師に相談する必要がある時等 には、職員が同行する場合もある。歯科や精神科 等専門医受診の場合についても、家族対応とし ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	看護師不在の為、管理者へ報告し判断してい る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、又、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携室のソーシャルワーカーと情報交換や 相談を行っている。早期に退院ができ安心して施 設の戻れるよう医療機関にアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	体調不良のため入院した際には早期に家族と話 し合い、事業所での対応を伝えるようにしてい る。また、医療連携室との連携を取りながら理解 して頂くようにしている。	入居時に看取りについては対応していないこと や、重度化した場合の対応について、家族に説 明している。体調を崩し入院が長期になる場合 には、家族と話し合い退所となることが多い。また、 入浴ができなくなる等重度化した場合には、再 度、事業所の対応について家族に説明し、理解 していただけるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成している。勉強会は 低位定期に行っているが応急手当の部分は訓 練不足である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を全職員 が身につけるとともに、地域との協力体制 を築いている	防災訓練・避難訓練は年二回行っている。災害 対策落として災害時には、どこに避難するか・ど のような手順にするか等訓練で再確認している。 地域との協力体制も今後は取れていく兆しが見 えてきている。協力をお願いをしている。	ハザードマップ上で水害の対象地域に指定され ていないことから、6月と12月に火災や地震を想定 した避難訓練を事業所独自で実施している。日 中に夜間を想定した訓練も実施している。水(2 ℓ、12本)、カセットコンロ、衛生用品、懐中電灯等 を備蓄している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し尊厳を大事にする声掛けをしている。人生の先輩であり敬う心を持ち接するようスタッフ間で対応している。	意思表示できる利用者が4人ほどおり、日常の会話や表情から意向の把握に努めている。筆談の必要な利用者や意思表示が難しい方は、表情や動作から意向を把握するようにしている。失禁時には、トイレ内で着替えて目立たないようにお風呂へ誘導するなど、プライバシーに配慮している。利用者の個人情報は、事務室内の施錠可能な引き出しに保管している。写真の掲載は入居時に同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いを伝えられるような環境を作り、言葉のかけ方に注意している。自己決定・表現しやすい雰囲気をつくるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位の暮らしを優先し、個人のペースで過ごして頂けるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができる利用者様には、声掛けを行い選んで。また訪問カットの際には自分の好みの髪型を伝える等声掛けを行い支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや、片付けの他に出来る方には調理を行っていただく事が出来てきた。キッチンに立ち、肉や野菜をいためたり、米を研いだりしており家事の一連の作業が出来ている。	毎日の献立は、その日の夜勤職員が作り、それを基に日勤の職員が調理している。利用者は、食材を炒めたり、盛り付け、茶碗拭き等を職員と一緒にやっている。利用者からは、ラーメンやお寿司の希望が多く、大型スーパーの食堂へ食べに行く等、外食も楽しんでいる。誕生日にはちらし寿司を提供することが多い。お楽しみ会ではへっちょこ団子や餃子、クレープ、お好み焼き等を職員と一緒に作り楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や酢分量はチェック表で把握し一人一人の好みな合わせた、食事や水分を提供している。			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食の食事後、口腔ケアを行い清潔にしている。見守りや声掛けを行い不十分な方には介助するよう一人一人に合わせている。義歯がある方は夜間は預かるように消毒を行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個人個人の排泄を把握し、必要であれば定時で声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草を観察して声掛け誘導しトイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。現在、布パンツ利用者1名、リハビリパンツとパット利用者8名、夜間ポータブルトイレ利用者は1名である。便秘をしている利用者は、かかりつけ医が処方した下剤を服用している。普段から乳製品を摂ったり、体を動かす等により、便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品や食物繊維を摂取することや食品の品目をたくさん摂取できるようなメニューの工夫。リハビリ体操やを行って運動不足を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り利用者様に合わせるようにしている。ある程度の入浴日は決めているがタイミングが合わないときには変更する等、個人に合わせた支援をしている。	週2回、ゆったりと入れるよう着脱も含めて40分程の入浴を基本とし、1日3人が入浴している。冬場は肌が乾燥しやすいため、入浴剤を入れて肌の潤いを保つようにしている。歌を歌ったり、昔の話をしたりと職員との会話を楽しむ良い機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休息できる居室があり、状況に応じた対応ができている。夜間もゆっくり休めるよう本人に合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との関係性を保ち薬剤情報の理解をし、副作用がないか、症状の変化はないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた活動を行ったり楽しめるような工夫をしている。好きなこと、好きな食べ物、何をしたいか等の希望を会話にできるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日にはドライブに行く、どこに行ってみたいか会話を行っている。今年は数年ぶりに買い物レクを行い楽しめた。ご家族との外出では外食も楽しむことができていた。	夏場は、玄関先に長椅子を出して外気浴をしたり、事業所の畑に出てとうもろこしや枝豆、カボチャなどを収穫して楽しんでいる。天気の良い日には、近隣を散歩し気分転換を図っている。近くの公園へのドライブや大型ショッピングセンター、八幡平市の道の駅に買い物に出かけたり、四十四田ダム桜を見にドライブする等、利用者の意向に沿って外出を楽しむことができるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭の管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて本人が家族に電話をすることもある。家族からの電話の際には、その都度応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の部分は特に清潔を心がけており、またけがをするようなことが無いように安全面を心がけている、利用者様が不快な思いをしないよう快適に過ごして頂きたいと思っている。ホールには季節に合ったものを掲示し居心地のいい空間になるよう工夫している。	共有スペースとなっているホールには、テーブルやソファ、テレビが備え付けられ、天窓もあり明るい雰囲気となっている。全館にわたり床暖房があり、ほんのり暖かい空間が保たれている。ホールの壁には、各月ごとのイベントの写真や利用者の作品、石川啄木の歌等が飾られ過ごしやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの自席では気が合う方々と会話ができるスペースや、談話室に移動して自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や持参したいものがあれば、了承している。落ち着いた過ごすことができる空間を作っている。家族の写真や観葉植物を持参している方もいる。	居室は、床暖房により室温が20度から22度ほどに保たれ、利用者は居心地よく過ごしている。ベッドと大き目のチェストが備えられ、利用者は使い慣れたテレビやソファを持ち込み、家族の写真や手作りの作品などを飾った過ごしやすい居室となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の中では居室の位置、トイレ等の場所がわかるように提示している。動線には危険なものがないようにして安全が保たれるようにしている。		